

初めてのミャンマー訪問：2025年7月15日～20日

八王子市 太陽 代表 長谷川 隆

初めてのミャンマー、その新鮮な驚きと印象をお伝えします。

なお、留学生の受け入れの仕事で行った中での見聞なので、情報は限られています。



・私の1日遅れで到着の日本人3人グループが入国時にビザの問題で2時間くらいヤンゴン空港ですったもんだあって大変だった。日本でビザを電子申請して出発までに入手できず、ヤンゴン空港でアライバルビザを取るしかなくなったが、Immigrationのスタッフにバンコクに帰れ、など言われ入国できるのかと気をもんだそう。迎えに行ったこちらも1時間待ちで。現地日本語学校の校長が空港関係者と知り合いで助けられた。

・隣の国、バングラデシュ、インドの人々は足が長く顔の彫りが高く色黒のアーリアン系だが、ミャンマー人は日本人と同じ顔、体系のモンゴリアン系で、親近感を感じる。ほぼ仏教徒でもある。また日本語の勉強ぶりからしてもなかなか勤勉だ。昔から識字率が高いらしい。

・地元の食事食べてみて、東南アジア、南アジアの食文化が混ぜ合わさったような多彩さでメニューが豊富でおいしく驚いた。ローカル食は結構インド的カレーのようだった。



・ミャンマーも日本車の割合が8割位と高く、バングラデシュに近いくらいだ。日本とのつながりは相当高いようだ。ベトナムのように韓国への進出は強くは感じない。

・ただホテル横のグルメ街のスーパーでは韓国食品がアジアの他国同様見られた。

・このグルメ街では夜八時半にはどの店も閉まった。戒厳令？によりローカルの店は8時には閉まるという。日本食レストランなど高級レストランは11時近くまで開いていた。

・一日に4時間くらい計画停電があるという。それで学生の面接は学校で行わず、別会場を借りてやるということがある。

・クーデター、軍政がなければタイに負けない経済力をつけていた、という話も。

・ミャンマーにはネパール人もいてネパール料理店などしているという。これは第2次世界大戦でネパール人がイギリス兵として雇われミャンマーで戦っていて（日本と）戦争が終わり残った人たちだという。



・高卒の初任給は1.7万円くらい、大卒で2万円台と聞く。4-5年でミャンマー通貨の価値が3分の一に落ちたそう。だからなお、日本の給与水準は魅力なのだと聞いた。今はネパールの給与水準と同じくらいか、少し低いかもしれない。

・ある方の話では、給料5.6万円（本人は2.7万円というが）（80万キヤット）、親が年金3.5万円くらい（50万キヤット）、親子二人でアパートに4.2万円（60万キヤット）で住むという。これだけの話だとネパールよりずっと高いか（ネパールでは給料3万円以上の人は稀だ）。



- ・ 4 年ほど前のクーデターの影響で、外資系企業が撤退し、今も外資系は 5 % しか戻っていないようだ。これが経済停滞の大きな要因のようだ。
- ・ この 2 年（コロナ明けもあり）で日本への特定技能で働きに来る人が激増している。
- ・ 軍政による、より厳しい徴兵制と外国への出稼ぎ規制が 2025 年春に出た。男 23 歳から 32 歳まで出稼ぎ禁止であったのが、18 歳から 35 歳まで外国への出稼ぎ禁止で徴兵されるというものだ。それで仕方なく留学に流れているという。留学と言っても 1 年だけの語学留学でその後は就労をめざすものだ。
- ・ 通常は日本の日本語学校 2 年の後、専門学校 2 年か大学に 4 年行くところだ。

・ 空路で日本に特定技能で出るには 1 年かかる（日本企業の面接合格後、日本の入管の許可、ミャンマー日本大使館からのビザ発給まで）が、北の陸路で賄賂を 20 万円払ってタイに出れば、6 か月で日本に働きに出られる、というような話も聞いた。



日本語学校で

・ ミャンマーはとても親日的で日本への就労、留学は人気がある。日本語レベルが高く勤勉さがうかがえる。ネパール等のように優秀な人は英語力を生かし、欧米を目指す、とい

う傾向はミャンマーは低いかもしれない。

- ・ネパール、スリランカなどでは、留学希望者は日本語レベル初級の N5 をやっと取るのが精いっぱい N4 まで合格する学生は本当に少ない。一方ミャンマーでは N5 はもちろん、N4、N3、中には自学自習だけで N2 を合格する生徒が結構いる。

- ・1 日当たり、週当たりの学習時間はネパール、スリランカと変わらないようだが。

- ・ミャンマーではクーデターがあってから、大学に入っても退学する学生がとても多かった。日本留学希望者に大学中退が多く年齢も行っている。高卒、中退後に 3-5 年経っている人が多いが仕事をしている人がほとんどいない。なかなか仕事がないのかなと思われる。

- ・日本語学校の寮を見せてもらったが、女子学生たちがベッドもエアコンもない大部屋で麻？の敷物の上に並んで寝るスタイルだった。それは私物もプライバシーも本当になような生活と思われた。にぎやかな共同合宿生で楽しそうだが。個人の家電製品はゼロではないかという感じ。

- ・若い女性の尼さんの長い托鉢行列が見られた。

- ・街の道路は広く整然としている。ただ路地を入れば狭い袋小路に狭い数階建てのアパートがひしめく。毎日雨が降り曇天ながら皆洗濯物を干している。夏は雨期で涼しくて日本より過ごしやすい感じだ。ちょっと日が差せば暑い。

- ・仏教寺院が立派。4 月半ばに仏様の誕生日の頃、大きな長いお祭り（新年？）があるそう。スリランカと同じ頃だ。仏様の誕生日が国により少しずつ違っている。

- ・9,000 円でもものすごく立派なホテルに泊まれた。

- ・現地に住み金細工の商売をする日本人から聞いた話では、ミャンマーの農家は日本人には驚くほど広い農地を持っているという。



特定技能の介護試験に合格し、研修合宿中の 20 代前半の女性たち。日本語がうまい。



ヤンゴン市内でタクシーに乗るところ

